

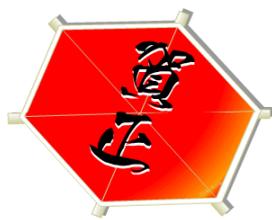
1月・2月の管理ポイント

 ホームページアドレス
<http://www.tomo-green.com/>

第127号

明けましておめでとうございます。

昨年は、新商品の抗ストレス剤『インターセプト』、サッチ分解剤『サッチ・マネー
 ジャー』をはじめ、弊社推進商品をご利用頂きまして、誠にありがとうございました。
 本年も変わらぬご支持を頂けますよう社員一同頑張っていきたいと思えます。



春先(3~5月)

春の水管理が、芝生の根をしっかりと伸ばすポイントです!!

レボは**土壌粒子の表面を極端に薄い膜で覆います**ので、土壌中の空隙率がアップし、表層の過湿を防ぎます。

この効果が、**グリーンの表層を少し乾燥気味にし、根に軽いストレスを与えるため、根の伸長活動を活発にさせます。**

定期処理することによって、根が下に伸びやすい環境が整います。夏が来るまでにしっかりと根域が形成できるように管理していきましょう。

4月よりベントの本格的な生育最盛期になります。レボ+光合成細菌を定期処理することで土壌表層の通気性を確保できます。昨年末から蓄積されてきた悪臭物質を減らしていきましょう。

また地温の上昇に伴い、土着菌の活性も上がって行きます。

最初に土着菌の勢いを付けさせるために、動物性アミノ酸たっぷりのマリンパワーを処理して、土壌を動かしておきましょう。

| | | | |
|--------|----------------------|------------------------------|---------------|
| 使用量：レボ | 2ml/m ² | 散布水量：200ml~1L/m ² | 散布回数：1ヶ月に1回 |
| 光合成細菌 | 1~2ml/m ² | 散布水量：1L/m ² | 散布回数：1ヶ月に1~2回 |
| マリンパワー | 2ml/m ² | 散布水量：1L/m ² | 散布回数：1ヶ月に1回 |

光に対するタネの反応①

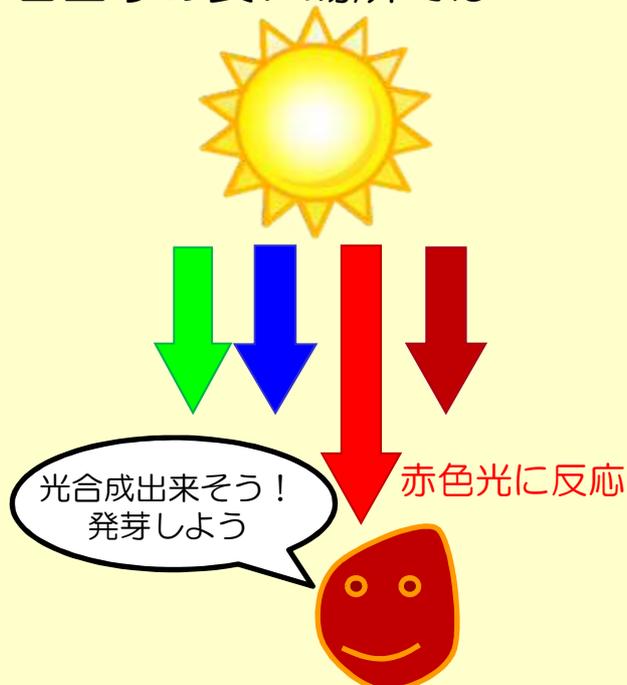
—タネが光を感じる理由—

2013年のマメ知識でもご紹介してきたように、光に対する植物の反応には様々なものがあります。今回は、タネの光に対する反応についてご紹介します。

タネの発芽の必須条件といえば、水、酸素、(適切な)温度ですが、これらに加えて光を発芽の条件とするタネがあります。そのようなタネを、**光発芽種子**と呼びます。

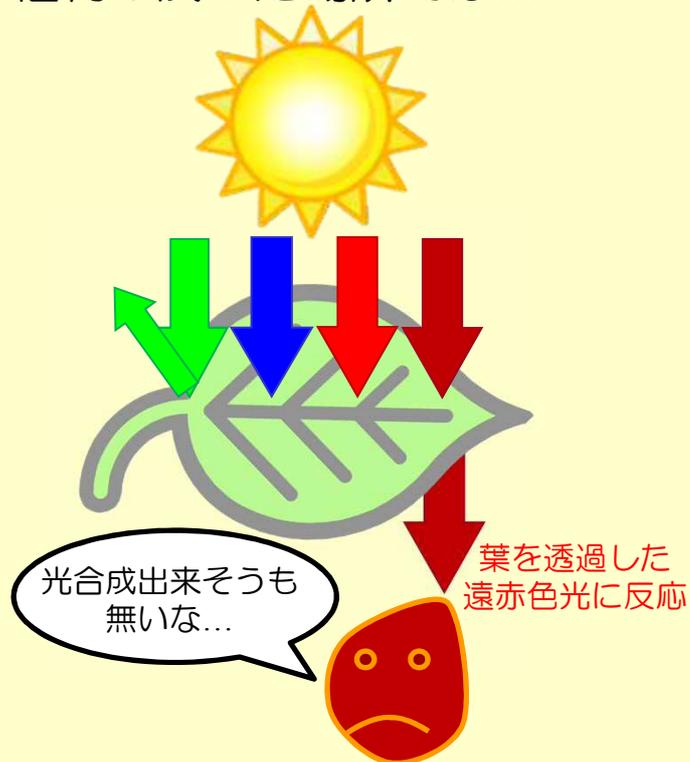
光発芽種子が光を発芽の条件とする理由は、芽生えが光合成を行えるかどうかを判断するためです。芽生えが十分に光合成を行えないような条件下では、発芽せずタネの状態に耐えたほうが得策だからです。そのため、当たる光の種類によって、タネの発芽は促進されたり、逆に抑制されたりします。

日当たりの良い場所では...



日当たりの良い場所では、さまざまな波長の光が当たります。その中でも、光合成に役立つ**赤色光**を感じ取って、タネの発芽が促進されます。

植物が茂った場所では...



植物群落の中では、光合成に役立つ青色光や赤色光は葉に吸収されるため、地表まで届きません。一方、光合成に使われない**遠赤色光**は、葉を透過して地表まで届きます。この遠赤色光を感じ取ったタネは、発芽しても光合成が十分出来ないと判断して、発芽を控えます。

上の図のように、**発芽は赤色光で促進され、遠赤色光(近赤外光)では逆に阻害されま**す。このように光発芽種子は、当たる光の種類を感じて発芽を調節することで、発芽後の生き残りの確率を上げています。

光を感じるということは、受容体である色素を持っているということになります。発芽を左右する色素については、次回のマメ知識で紹介する予定です。